平成２６年度病害虫発生予報第１２号

平成２７年３月４日
鳥取県病害虫防除所

予報の概要

区　分	農　作　物　名	病　害　虫　名	発 生 時 期	予想発生量
普通作物	イ　ネ	ばか苗病	平 年 並	平 年 並
		イネシンガレセンチュウ	平 年 並	少 な い
果　樹	ナ　シ	黒斑病	平 年 並	やや多い
		ハダニ類	平 年 並	平 年 並
		カメムシ類	―	やや少ない

気象予報（抜粋）

１か月予報（２月２８日～３月２７日：２月２６日、広島地方気象台発表）

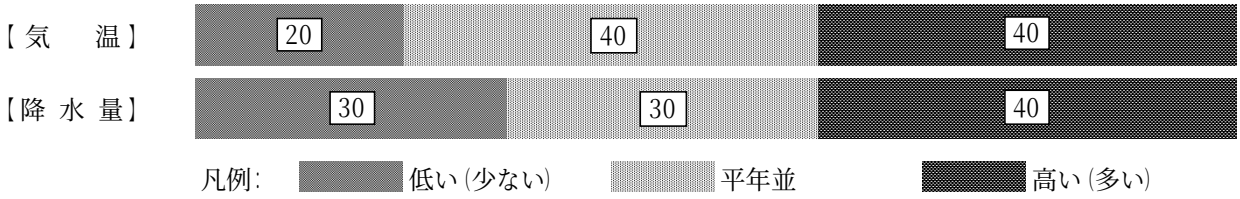
向こう１か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

天気は数日の周期で変わるでしょう。

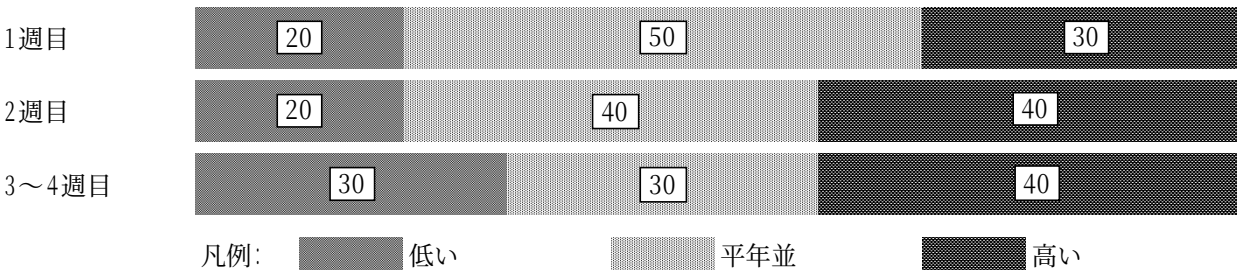
向こう１か月の平均気温は、平年並または高い確率ともに４０％です。

週別の気温は、１週目は、平年並の確率５０％です。２週目は、平年並または高い確率ともに４０％です。

＜向こう1か月の気温、降水量の各階級の確率（%）＞



＜気温経過の各階級の確率（%）＞



普通作物

［イ　ネ］

1　ばか苗病

（１）予報の内容

発生時期　　平 年 並（育苗期）

発 生 量　　平 年 並

（２）予報の根拠

前年の発生は平年並であり、本年用種子の保菌率は平年並と推測される。

（３）防除上注意すべき事項

ア　前年の発生ほ場から採取した籾は、種子として使用しない。

イ　塩水選及び種子消毒を徹底する。

ウ　温湯種子消毒にあたっては、消毒時間、温度などを厳守する。消毒後の種子を保管する場合には、種子を十分に乾燥させ、清潔な冷暗所に保管する。浸種を行う場合には、必ず水道水を使用し、適宜、水の交換を行う。

エ　薬剤による種子消毒（低濃度長時間浸漬）を行う際は、薬液がよく浸透するように網袋にゆとりをもたせる。また、薬液の温度が１０℃以下にならないように注意する。消毒後の浸種は停滞水中で行い、水の交換は原則として行わないが、水温が高い場合など酸素不足になるおそれがあるときは静かに換水する。

2　イネシンガレセンチュウ

（１）予報の内容

発生時期　　平 年 並

発 生 量　　少 な い

（２）予報の根拠

前年の本虫による葉先枯れ症状の発生は非常に少なかったため、汚染籾率は低いものと推測される。

（３）防除上注意すべき事項

ア　前年の発生ほ場から採取した籾は、種子として使用しない。

イ　塩水選及び種子消毒を徹底する。

ウ　温湯種子消毒については、ばか苗病に準じる。

エ　薬剤による種子消毒（低濃度長時間浸漬）の場合、ばか苗病防除薬剤と本虫防除薬剤の混用により同時防除が可能であるが、各薬剤の使用濃度が異なるので注意する。

果　樹

［ナ　シ］

1　黒斑病

（１）予報の内容

発生時期　　平年並

発 生 量　　やや多い

（２）予報の根拠

ア　平成２６年１２月上旬に行った越冬菌密度調査の結果、短果枝の病芽率はほぼ平年並であったが、一年枝上の枝病斑数はやや多かった。また、病枝率もや

や多く、一部で病枝率の高い園が認められた。
イ　向こう１か月の気象予報から発生時期は平年並と予想される。
（３）防除上注意すべき事項
ア　３月中に枝病斑に対するトップジンMペースト原液による塗布作業を徹底して行う。特に、枝病斑は２～３年生部分の側枝に集中して形成されているので、側枝全体をよく見る。
イ　３月下旬～４月（発芽期～開花前）になると、芽の動きから病芽がはっきりと判別できるようになるので、この時期に園内を２～３回見回り、短果枝及び腋芽の腐れ芽を取り除く。
ウ　薬剤は、発芽期にアントラコール顆粒水和剤５００倍液などを散布する。さらに、りんぽう脱落直前にデランフロアブル１，０００倍液、開花始めにチウラム水和剤（トレノックスフロアブル又はチオノックフロアブル）５００倍液などを散布する。

２　ハダニ類
（１）予報の内容
発生時期　　平 年 並
発 生 量　　平 年 並
（２）予報の根拠
ア　県内巡回調査園におけるハダニ類の越冬密度は平年並～やや少なかったが、カンザワハダニで、一部で越冬密度の高い地点がみられた。
イ　向こう１か月の気象予報から発生時期は平年並と予想される。
（３）防除上注意すべき事項
ア　枝、樹皮、誘引なわ等に越冬成虫（あるいは越冬卵）が多く認められるナシ園では、春先の蕾や幼葉での被害が予想されるため防除を徹底する。
イ　防除は３月中旬にハーベストオイル１００倍液を散布する。なお、発芽期にアントラコール顆粒水和剤を散布するナシ園では、ハーベストオイルとの散布間隔を１０日以上あける。

３　カメムシ類
（１）予報の内容
発 生 量　　やや少ない
（２）予報の根拠
クサギカメムシ越冬成虫数の調査によると、前年と比較して越冬数は少ないことから、越冬量はやや少ないと見込まれる。
（３）防除上注意すべき事項
ア　山際及び作業小屋周辺では、クサギカメムシ越冬成虫による幼果被害が懸念されるので、３月下旬までに果樹園内の小屋をきれいに清掃し、成虫を見つけ次第捕殺する。
イ　例年カメムシ類の発生が多い園では、４月以降、定期的にほ場を見回るなどして、春先の発生程度の把握に努める。